

令和 6 年度

事業報告書

小松市矢崎町ナ 129 番地 1

社会福祉法人大和善隣館

法人番号 2-2200-0500-3536

令和 6 年度 社会福祉法人大和善隣館『事業報告』

令和 6 年度における事業報告は、次の通りである。

【1】法人役員構成等

1. 役員の構成

理事長 広川 保

評議員 定数 7 名以上 12 名以内 (令和 7 年 3 月 31 日現在 11 名)

理 事 定数 6 名以上 10 名以内(理事長・常務理事含) (令和 7 年 3 月 31 日現在 8 名)

監 事 定数 2 名以上 (令和 7 年 3 月 31 日現在 4 名)

2. 評議員会開催

開催年月日	出席数	議 決
令和 6 年 6 月 20 日 開会:14 時 00 分 閉会:15 時 10 分	評議員 10 名 理事 9 名 監事 2 名	議案第 7 号 令和 5 年度事業報告 ・計算書類 ・財産目録の承認 ・監事監査報告・社会福祉充実残額 議案第 8 号 令和 6 年度資金収支補正予算について 「その他」 大和こども園給食室改修工事入札結果報告
令和 6 年 11 月 14 日 開会:17 時 35 分 閉会:17 時 50 分	評議員 11 名 理事 7 名 監事 3 名	議案第 9 号 令和 6 年度資金収支補正予算について
令和 7 年 3 月 24 日 開会:14 時 50 分 閉会:16 時 00 分	評議員 9 名 理事 8 名 監事 3 名	議案第 1 号 定款の一部変更について 議案第 2 号 令和 6 年度資金収支補正予算について 議案第 3 号 令和 7 年度事業計画について 議案第 4 号 令和 7 年度資金収支予算について 議案第 5 号 令和 7 年度資金収支補正予算について 議案第 6 号 理事の選任について 「その他」 一般事業主行動計画

3. 理事会開催

開催年月日	出席数	議 決
令和 6 年 4 月 15 日	通知文	理事長の執行状況報告
令和 6 年 5 月 14 日 書面決議	理事 8 名 監事 4 名	議案第 12 号 入札執行等の承認について
令和 6 年 6 月 3 日 開会:14 時 00 分 閉会:15 時 15 分	理事 8 名 監事 4 名	議案第 13 号 諸規程の一部変更について 議案第 14 号 令和 5 年度事業報告 ・計算書類・財産目録の承認、監事監査報告、社会福祉充実残額 議案第 15 号 令和 6 年度資金収支補正予算について 議案第 16 号 福祉サービス苦情解決第三者委員の選任について 議案第 17 号 令和 6 年度入札の執行等について 議案第 18 号 評議員会の招集について 「その他」 高額物品の購入及び高額修繕工事等表
令和 6 年 7 月 8 日	通知文	理事長の執行状況報告 大和こども園給食室改修工事入札結果報告

令和6年10月17日 書面決議	理事8名 監事4名	議案第19号 評議員会の招集について 「その他」 理事長の執行状況報告 月津こども園太陽光発電設備設置工事入札結果報告 湯野こども園新築工事入札結果報告
令和6年11月14日 開会:17時00分 閉会:17時30分	理事7名 監事3名	議案第20号 諸規程の一部変更について 議案第21号 令和6年度資金収支補正予算について
令和7年1月9日	通知文	理事長の執行状況報告
令和7年2月10日 書面決議	理事8名 監事4名	議案第1号 評議員会の開催について
令和7年3月24日 開会:13時00分 閉会:14時40分	理事8名 監事3名	議案第2号 諸規程の一部変更について 議案第3号 施設長の選任について 議案第4号 役員等候補者の推薦について 議案第5号 定款の一部変更について 議案第6号 令和6年度資金収支補正予算について 議案第7号 令和7年度事業計画について 議案第8号 令和7年度資金収支予算について 議案第9号 令和7年度資金収支予算について 議案第10号 評議員選任解任委員の選任及び解任について 「その他」 理事長の執行状況報告 一般事業主行動計画

4.評議員選任解任委員会開催

開催年月日	出席数	議決
開催なし		

5.法人監査

開催年月日	出席数	指摘事項
令和6年5月13日 ～14日 開会:10時00分 閉会:12時00分	監事4名	指摘事項なし

6.入札の執行状況

開催年月日	立会者	指摘事項
令和6年6月18日 入札即開札 14時00分	小松市担当職員1名 理事2名 監事1名 評議員1名	入札事項:大和こども園給食室改修工事 指名競争入札参加:8者 指名競争入札結果:最低額入札者/加越建設株式会社 契約額:39,000,000円(税別)

令和 6 年 7 月 31 日 入札即開札 10 時 00 分	小松市担当職員 1 名 理事 2 名 監事 1 名 評議員 1 名	入札事項:月津こども園太陽光発電設備設置工事 指名競争入札参加:8 者(棄権 1 者) 指名競争入札結果:最低額入札者/㈱今出電気商会 契約額:19,300,000 円(税別)
令和 6 年 9 月 24 日 入札即開札 14 時 00 分	能美市担当職員 1 名 理事 2 名 監事 1 名 評議員 1 名	入札事項:湯野こども園新築工事 指名競争入札参加:10 者 指名競争入札結果:最低額入札者/松浦建設㈱ 契約額:809,600,000 円(税別)

【2】法人本部事務局

「法人名称変更」及び「法人所在地移転」の転換期から 4 年が経過し、新たな地でこれまで以上に地域・地元に関われる存在になれるよう努め、社会に貢献する法人として未来永劫存続するよう最善を尽くす。

今年度は法人創立 80 周年を迎え、記念式典及び記念講演を開催した。当法人を創立した先人の熱意と、その想いと期待に応えてきた諸先輩各位、また、日頃より応援してくださる地域・保護者・小松市そして能美市・関係機関ほか皆様方の多大なるご支援に感謝するとともに、創立 90 周年・100 周年と繋いでいく所存である。

湯野こども園民営化より 1 年が経過した。事業継承に関し能美市の協力を受けながら、ひとまず大きな混乱なく引き継ぐことが出来たと感じる。まだまだ慣れない部分もあるが、利用者等に不便を掛けることなく事業に邁進する。令和 6 年 12 月より新園舎建設工事に着手しており、令和 7 年 10 月末の完成を目指す。新しい環境にて、こどもたちが目一杯元気に活動する姿を想像し、最大限の努力を惜しまず事業運営に努めていきたい。

当法人では令和 3 年度に小松市、今年度より能美市において SDGs 宣言をしている。目標達成年限である 2030 年までに出来る範囲での取組を実践していきたい。今年度は月津こども園に「太陽光発電設備」を設置し、やざき乳児保育園と松陽こども園では電気自動車を契約及び購入。また、使用電力の 20%を、水力電源 100%で CO₂フリーの電気に切替し、環境保全寄与に取組む。

記念すべき法人創立 80 周年を無事迎え、また、令和 7 年度は「湯野こども園」新園舎も完成することから、次年度に希望のバトンを繋ぐ 1 年となった。

1.施設一覧表

施 設 名	利用定員及び児童(講座生)数	開設年月日 ()は保育所開設	住 所
幼保連携型認定こども園 大和こども園 施設長:池田 巧	225 名	平成 27 年 4 月 1 日 (昭和 19 年 6 月 15 日)	小松市大和町 102 番地
大和こども園分園やざき乳児保育園 施設長:池田 巧(本園兼務)	20 名	令和 3 年 4 月 1 日	小松市矢崎町ナ 129 番地 1
幼保連携型認定こども園 松陽こども園 施設長:森 都	155 名	平成 27 年 4 月 1 日 (平成 17 年 4 月 1 日)	小松市大領中町 1 丁目 171 番地
幼保連携型認定こども園 月津こども園 施設長:荒井 早苗	105 名	平成 27 年 4 月 1 日 (平成 24 年 4 月 1 日)	小松市月津町め 57 番地
幼保連携型認定こども園 中海こども園 施設長:清水 啓子	65 名	平成 30 年 4 月 1 日	小松市軽海町ノ 16 番地 4
幼保連携型認定こども園 蓮代寺こども園 施設長:片桐 真二	85 名	平成 30 年 4 月 1 日	小松市蓮代寺町に 173 番地
幼保連携型認定こども園 湯野こども園 施設長:堂前 弘美	205 名	令和 6 年 4 月 1 日	能美市佐野町ワ 35 番地
芦城児童クラブ 1 施設長:田中 琴乃	45 名	平成 17 年 4 月 1 日	小松市西町 25 番地
芦城児童クラブ 2 施設長:田中 琴乃	45 名	平成 22 年 4 月 1 日	小松市西町 25 番地
蓮代寺児童クラブ	25 名	平成 31 年 4 月 1 日	小松市蓮代寺町ハ丙 16 番地
大和ぬくもり大学 学長:朝岡 明美 施設長:広川 保	500 名	平成 4 年 7 月 1 日	小松市相生町 11 番地
本部事務局			小松市矢崎町ナ 129 番地 1

2.主な取り組み

①「法人創立 80 周年記念事業」

令和 6 年 6 月 15 日に法人創設 80 周年を迎え、法人本部所在地である小松市矢崎町に白山をモチーフにしたモニュメント看板の設置を行った。また、同年 11 月 4 日に宮橋小松市長・井出能美市長・福村県議(元理事長)を来賓に迎え祝辞を頂き、小松市民センター大ホールにて記念式典を挙げる。東京大学名誉教授である汐見稔幸氏に「保育、その先へ…私達は、これから何をするべきか」をテーマに記念講演をいただいた。職員等参加者約 250 名一同、貴重な講演を拝聴することができ、大変有意義な時間を提供いただいた。大和善隣館として、創立 90 周年、そして 100 周年と繋いでいくため、引続き支えてくださる地域の方々や関係者各位への感謝の気持ちを忘れることなく、事業に邁進していく所存である。

②「湯野こども園民営化」

令和 6 年 4 月 1 日より運営が能美市から当法人に移管し、1 年が経過した。同年 12 月より新園舎建設(移転新築)工事にも取掛かり、令和 7 年 10 月末の完成を予定している。実際の運営に関してはまだまだ不慣れな点はあるが、過去民営化を経験してきている園長を筆頭に、職員一同、最善の教育・保育に努める。令和 6 年度から共同保育を行っている能美市(派遣職員)からの事業承継を行い、こどもたちはもちろんのこと、保護者や地元地域より「大和善隣館が湯野校下にきて良かった」と言われるように、引続き最大限の努力を惜しまずに、事業運営に努めるもの。

③SDGs(持続可能な開発目標)宣言に対する取組

今年度「月津こども園」にて防衛省補助金を活用し「太陽光発電設備」を設置した。また、やざき乳児保育園では、電気自動車の購入契約及び松陽こども園でも電気自動車の更新(買替)も行い、CO₂排出量削減を見込む。その他、高圧電気施設において北陸電力の再生エネルギープラン「かがやき GREEN ピュア」を契約。使用電力の 20%を本電力にて賄う契約に切替えた。CO₂排出量ゼロの環境価値を付加した電気料金メニューであり、環境にやさしい取り組みに寄与すべく加入したものの。

④職員採用

昨年度同様、自法人の YouTube チャンネルを活用した動画作成を行い、将来保育者を志す学生等に興味を持ってもらえるよう活動に取り組んだ。また、求職者だけではなく、こどもたちの日常の保育の様子や行事等を配信することによって、保護者の方々にも、こどもたちの普段のこども園での様子を観ていただけることから、法人や運営施設をより知ってもらえるツールとして引続き有効活用していく。

⑤奨学金貸与事業

今年度の利用実績はなかった。給付型奨学金制度創設や行政による奨学金も充実してきたが、法人独自の制度なので、引続き広報活動を行っていきたい。また、来年度からは法人職員を対象に奨学金借入返済の補助を目的とする「奨学金返済補助手当」を創設する。

⑥大和こども園給食室改修工事及び保護者用駐車場用地取得

大和こども園は今年度で築 24 年目を迎え、給食室の経年劣化等も多々見受けられたため、こどもたちや職員への滞りない給食提供を行うべく「就業前教育・保育施設整備交付金」を活用し改修工事を実施した。また、以前より課題となっている駐車場不足の解消を図るべく、正面玄関前の駐車場用地を購入することが出来、現在利用中の駐車場と併せて約 20 台分の駐車が可能となり、送迎時間帯の混雑緩和がなされた。

⑦ハラスメント講習会実施

パワハラ、セクハラ、モラハラ、カスハラ等々現代社会では人間関係に関するあらゆるトラブルにハラスメントが関係すると考えられるが、職員がハラスメントの定義を正しく理解するためのコンサルタントによる講習会を開催した。これにより啓発を受け「カスタマーハラスメント対策に関する行動指針」を策定し令和 7 年 4 月 1 日施行した。

3.職員の配置(事務所並びに施設)

令和7年3月31日現在在籍者数

		大		和		松		陽		月		津		中		海		蓮		代		寺		や		さ		き		湯		野		芦城児童クラブ				蓮代寺		大和善隣館		大和ぬくもり大学		計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非	正	非																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園		こども園	

産 業 医																																1		1
学 校 医																																		7
内 科 / 小 児 科 医			1			1			1			1			1			1																8
歯 科 医			2			1			1			1			1			1																7
薬 剤 師			1			1			1			1			1			1																

【3】施設関係

1. 幼保連携型認定こども園 大和こども園の経営

昭和 23 年 11 月 1 日児童福祉法により認可(平成 23 年度より定員 280 名)

平成 27 年 4 月 1 日幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 275 名。翌年、大和保育園から「大和こども園」に名称を変更。

令和 4 年 4 月 1 日定員 240 名に減員。(1 号 15 名, 2 号 120 名, 3 号 105 名)

(1) 事業実績の概要

●主たる整備事業

給食室改修工事(R6.7～10), 園舎正面保護者送迎用駐車場拡張工事(R7.1～3)

●教育及び保育事業

めざす子ども像を引き続き「夢中になって遊び込める子」とし、法人の保育の基本方針(三つのゼン)を踏まえ、教育・保育課程運用の視点を安全(安心・信頼)、自然(関わりたくなる環境づくり)、積善(自信・自己肯定感の育成)として教育及び保育を展開した。特に安全面については、昨年度の反省から園児の取り残しがないようにマニュアルを見直し、人数確認を徹底し安全確保に努めた。

子どもの主体性を生かした保育の推進にあたって、職員の「子ども観」のばらつきに課題があったので、全職員を対象に子どもへの関わり方で大切な視点について学ぶ機会を設けた。まだ、十分とは言えないが子どもを肯定的に受け止め、その子らしさを大事にした関わり方を意識し、行動できるようになってきている。

保育への見方を広げるため、今年度も市内のこども園に職員を派遣した。異年齢保育等他園の取り組みのよさを知り、保育の改善につなげることができた。また、金城大学短期大学部和泉客員教授を招聘した。回数は限られたものの、保育者の悩みに応じた指導・助言をいただいたことにより、OJT と兼ねることができた。

障がいや発達上の課題のある園児への支援では、特別支援教育アドバイザーが中心となり、加配園児の保護者と担当保育者との面談をコーディネートした。具体的な支援について保護者、関係機関と共有でき、家庭・園・関係機関と連携した中で育ちを支えることができた。また、職員の加配園児への相談に応じ、個に応じた居場所づくり、関わり方等より的確な支援を行うことができた。

●子育て支援事業

未就園親子を対象とした地域子育て支援事業は、分園となる「やざき乳児保育園」で実施した。子育てに関する相談窓口は、ホームページ上に開設し、相談に応じられるようにした。また、地域に発信する情報誌「ぽかぽか大和」は、掲示及びホームページを通し、園の様子を伝えられるようにした。

(2) 月別在園児童数

大和		定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	30	4	6	7	8	9	14	16	17	18	19	19	19	156
	1歳児	35	27	28	30	31	31	29	30	30	30	31	31	31	359
	2歳児	40	29	29	28	28	28	27	26	26	24	24	24	24	317
2号認定	3歳児	35	28	29	30	31	31	31	31	32	32	31	31	31	368
	4歳児	35	30	30	31	31	31	30	30	30	28	27	28	28	354
	5歳児	35	38	37	36	36	36	35	35	35	35	35	35	35	428
1号認定	満3歳児	15	0	0	1	1	2	3	4	4	5	4	4	3	31
	3歳児		4	4	3	2	2	2	2	1	1	2	2	2	27
	4歳児		7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	5	5	74
	5歳児		4	4	5	5	5	5	5	5	4	4	5	6	57
		225	171	174	178	180	181	182	185	186	183	183	184	184	2,171

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	休日保育	病児(体調不良児)保育	地域子育て支援	延長保育	一時預かり	災害特例型
令和 5 年度	206(法人計)	194	分園で実施	2,197	106	40
令和 6 年度		119	〃	2,022	60	145

2.幼保連携型認定こども園 松陽こども園の経営

昭和 29 年 4 月 1 日・定員 80 名の認可を受け開設。

平成 17 年 4 月 1 日・より小松市より受託経営開始。

平成 18 年 4 月 1 日・定員 140 名で直接経営開始(平成 25 年度より定員 170 名)

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 170 名(内訳は 1 号 15 名/2 号 80 名/3 号 75 名)

平成 28 年 4 月 1 日・施設名称を「松陽保育園」から「松陽こども園」に変更

令和 4 年 4 月 1 日・利用定員を 155 名に変更(1 号 15 名, 2 号 80 名, 3 号 60)

(1)事業実績の概要

●教育及び保育事業

令和4～6年度は、子どもの興味関心を軸とする「つなげる・つながる保育」の進化をみつめる研究を通して保育の探究を行った。保育の探究から、令和7年度はめざす子ども像を新たに「やりたいがあふれる子」とし子どもと息の合う関係性の中から「わくわくする保育」「子ども主体の保育」とはどのような保育なのかを引き続き探り、学びを深めていくことにする。「プロジェクトアプローチ」の手法から「15分ダイアログ」での保育者間の共有、「サークルタイム」での子ども同士による対話、保育日誌を活用し保育を振り返る、ぶつ切りの保育を見直し連続した保育からの探求心の向上を図った。3つのキーワード「共有・連続・可視化」からクラス枠を超えた横のつながり(保育者間のつながり)が深まってきた。これらの取り組みは、当園の保育の質の向上へと繋がり大きな成果であった。R6年 10 月、小松市研究発表会では子どもの興味関心を軸とする「つなげる・つながる保育」への進化を見つめる～探求する“子どもと保育者の歩み”より～をテーマに発表を行った。

法人園内研修では、金城大学短期大学部和泉客員教授を招聘した。招聘した6回のキャリアアップ研修対応の園内研修は参加人数も毎回、平均20名以上の職員が参加し学びを深めることができた。職員からは学びが深められたとの感想が多かった。法人全体での研修の機会を設けることができたことは、法人全体の保育の質の向上に大きく貢献したと考えられる。

新型コロナウイルス感染症が 5 類に引き下げられたことから、保育を内から外へと広げ、行事への保護者参加、小学校との連携、施設関係者による公開保育を行うことができた。保護者アンケート等、関係者より様々な評価をいただくことができ良かった。安心安全な保育を土台とした、きめ細やかな保育、求められるこども園となるよう地域に根差したこども園の在り方をさらに追求していきたい。

防災、安全対策においては、避難訓練の内容、引き渡し訓練の検証、日々の保育での安全体制において保育者間の共有、周知、課題からの改善をスピーディーに行った。子どもの置き去り、不適切保育においては、人数確認のより良い方法と確認を職員皆で、検証し徹底を図った。次年度は、全職員参加で不適切保育の研修を受講し「不適切な保育とはどんな保育であるか」を考えていきたい。

(2)月別在園児童数

松陽		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号認定	0歳児	16	7	8	8	10	11	13	14	15	16	15	15	15	147
	1歳児	26	21	21	21	23	23	23	24	25	25	25	25	25	281
	2歳児	28	26	26	25	25	25	25	25	25	25	26	26	26	305
2号認定	3歳児	29	30	30	30	30	29	29	29	29	29	29	29	29	352
	4歳児	24	25	25	26	26	27	27	27	26	25	23	24	24	305
	5歳児	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
1号認定	満3歳児	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	10
	3歳児	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	68
	4歳児	5	5	5	4	4	3	3	3	3	4	4	3	3	44
	5歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
		155	141	142	142	146	147	149	151	152	153	151	151	151	1,776

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり	災害特例型
令和5年度	45	881 組	1,178	103	25
令和6年度	33	530 組	1,417	80	0

3.幼保連携型認定こども園 月津こども園の経営

平成 24 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始(定員 120 名)

平成 26 年 4 月 1 日・施設の名称を「月津保育所」から「月津保育園」に変更するとともに、定員 130 名に増員

平成 27 年 4 月 1 日・幼保連携型認定こども園に移行し、定員は 140 名(内訳は 1 号 10 名/2 号 70 名/3 号 60 名)に増員

平成 28 年 4 月 1 日・施設の名称を「月津保育園」から「月津こども園」に名称変更

平成 29 年 4 月 1 日・定員を 145 名(内訳は 1 号 10 名/2 号 70 名/3 号 65 名)に増員

平成 30 年 4 月 1 日・利用定員(1 号 15 名/2 号 70 名/3 号 60 名)の変更

令和 4 年 4 月 1 日・利用定員を 135 名に変更(1 号 15 名/2 号 65 名/3 号 55 名)

令和 5 年 4 月 1 日・利用定員を 125 名に変更(1 号 15 名/2 号 55 名/3 号 55 名)

令和 6 年 4 月 1 日・利用定員を 105 名に変更(1 号 15 名/2 号 45 名/3 号 45 名)

(1)事業実績の概要

●主たる整備事業

太陽光発電装置設置工事（防衛省補助事業） 園庭築山工事（小松市補助事業）

●教育及び保育事業

心身ともに健康な子ども、自然を大切にする子ども、自分で考えて行動できる子どもを目指して教育・保育を展開し、遊びを通して知識や技能の基礎、思考力・判断力・表現力等の基礎、学びに向かう力、人間性等を育んできた。外部講師による園内研修（年 4 回の公開保育、カンファレンス）により保育者同士、語り合う習慣が持てるようになり、月案や日誌の記録等により子どもを見る目も育ってきた。さらに 2 歳児以上のクラスでサークルタイム（輪になって保育者も一緒に子どもと話をする場）が保育者間で定着してきた。サークルタイムを行うことにより、子どもたちは自分の思いを保育者や友達に伝えることができるようになったり、相手の話を聞くことができるようになったりしてきた。また、5 歳児では、春に中海地区の自然に触れ、自然の中でいろいろなことを学び、山歩きを最後まであきらめずにやりきることができたこと、夏には、夏祭りに向けて本物のお神輿を見に行き、友達と協力して工夫したり、考えたりしながら作り上げることができた。どの年齢も豊かで多様な体験を通して「頑張ってやりきる力」「気持ちのコントロール力」「コミュニケーション力」を育まれるよう努めてきた。子ども一人一人の主体性を尊重した教育・保育へと職員間で共有してきていることを実感している。保護者に対しても教育・保育の可視化を図りながら次第に理解してもらっている。

その他、小学校、地域との連携においてはきめ細かい関わりを重視してきた。小学校入学への期待、地域中の月津こども園を目指して様々な活動を行ってきた。

(2)月別在園児童数

月津		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	15	1	2	2	3	3	4	5	7	9	10	12	11	69
	1歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	16	15	15	16	182
	2歳児	15	23	23	21	20	20	20	17	17	16	16	16	16	225
2号 認定	3歳児	15	14	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	178
	4歳児	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
	5歳児	15	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	132
1号 認定	満3歳児	0	0	1	3	4	4	4	7	7	9	9	9	8	65
	3歳児	5	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	26
	4歳児	5	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	7	6	75
	5歳児	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
		105	95	97	97	98	98	99	100	102	107	107	109	107	1,216

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児 保育	子育て支援 「園開放」	延長保育	一時預かり		
				一時預かり	在宅育児	災害特例
令和 5 年度	64	91 組	239	57	21	32
令和 6 年度	39	208 組	342	93	0	0

4.幼保連携型認定こども園 中海こども園の経営

平成 30 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始(定員 105 名)

幼保連携型認定こども園に移行(1 号 4 名/2 号 62 名/3 号 39 名)、施設名称を「中海こども園」とする

平成 31 年 3 月 19 日・新園舎完成(同年 4 月 20 日、落成式)

令和 1 年 11 月 ・園歌「にじのかけはし」制定

令和 4 年 4 月 1 日 ・利用定員を 85 名に変更(1 号 15 名/2 号 36 名/3 号 34 名)に変更

令和 5 年 4 月 1 日 ・利用定員を 75 名に変更(1 号 15 名/2 号 28 名/3 号 32 名)に変更

令和 6 年 4 月 1 日 ・利用定員を 65 名に変更(1 号 15 名/2 号 24 名/3 号 26 名)に変更

(1)事業実績の概要

「遊びを通して様々なことを学び、生きる力を身につけていく」を教育保育目標とし、教育・保育方針 “三つのゼン” をもとに、子どもの主体性を尊重し異年齢の交流に重点をあて、他園への視察や出張講座、園内研修等を通して教育保育を進めてきた。

以上児(3.4.5 歳児クラス)は、登園後や降園前の自由あそびで、クラスにこだわらず、好きな保育室で好きな遊びを選択して友達(同年齢、異年齢問わず)と存分に楽しめるような環境づくりをしてきた。また 1 台の大型バスで園外保育に出かけたり、散歩したりする中で、異年齢の友だちができ、一緒に遊ぶ姿もみられた。保護者からも家での会話の中で異年齢の友だちのことを話したり、街で会ったときに名前を呼んだりすることがあると喜ばれている。年度末には、子どもたちの動線や生活の流れを見直し環境の整備を行った。登園後玄関ホールで身支度を済ませたあとすぐに 2 階保育室または遊戯室でのあそびへとつなげていき、ランチホールで食事した後は、となりの遊戯室で昼寝をするという生活の流れもできた。また、2 歳児も少しずつ以上児の異年齢交流に参加し次年度へとつなげていった。未満児クラスにおいても、保育室の環境を整え、子どもたちが自分で好きな玩具を取り出して遊べるようにした。

地域の方にはいつもご協力をいただき、子どもたちに貴重な経験をさせていただいている。お世話になっている地域の方をお招きし子どもたちと一緒に会食をする機会をもった。また、駐在所のおまわりさんとも連携をとり、不審者訓練に参加していただいた。小学校との連携においては、6 月の大雨洪水想定避難訓練で中海小学校へ行った際、校内を見学し、その他運動会を見たり、1 年生との交流、小学校まで散歩し休み時間の様子を見せていただいたりして、年長児にとっては、就学の期待へとつなげていくことができた。

子育て支援では、校区内の子どもの出生が減っているため、園開放や一時預かりの利用は減少している。園庭開放は、入園前に利用され、園庭での園児との交流やお部屋でのあそび、保護者同士の情報交換の場となっている。子育て支援情報誌や園だより、情報誌等は各町内に回覧し、こども園の取り組みを知っていただくよう努めている。

(2)月別在園児童数

中海		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	6	1	1	2	2	3	3	3	4	5	6	7	7	44
	1歳児	9	15	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17	200
	2歳児	11	11	10	10	10	10	10	9	8	8	7	7	7	107
2号 認定	3歳児	8	6	7	7	7	7	5	5	5	5	5	5	5	69
	4歳児	8	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	5歳児	8	8	8	8	8	8	10	10	10	10	10	10	10	110
1号 認定	満3歳児	0	0	1	1	1	1	2	3	4	4	5	5	5	32
	3歳児	5	6	5	5	5	5	7	7	7	7	7	7	7	75
	4歳児	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	5歳児	5	5	5	5	5	5	3	3	3	3	3	3	3	46
		65	61	62	63	64	65	66	66	67	68	69	70	70	791

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和 5 年度	80	87 組	162	80
令和 6 年度	96	20 組	115	26

5. 幼保連携型認定こども園 蓮代寺こども園の経営

平成 30 年 4 月 1 日・小松市立保育所民営化事業を受け直接経営開始。同時に幼保連携型認定こども園に移行

認可定員 120 名/利用定員 120 名(1 号 15 名/2 号 60 名/3 号 45 名) 施設名称を「蓮代寺こども園」とする

令和 3 年 3 月 18 日・新園舎完成(同年 5 月 1 日、落成式)

令和 3 年 4 月 1 日・利用定員を 105 名に変更(内訳は 1 号 15 名/2 号 45 名/3 号 45 名)

令和 4 年 4 月 1 日・利用定員を 95 名に変更(内訳は 1 号 15 名/2 号 38 名/3 号 42 名)

令和 5 年 7 月・スマイル農園(園庭東側に隣接した土地を購入)完成

令和 6 年 4 月 1 日・利用定員を 85 名に変更(内訳は 1 号 15 名/2 号 33 名/3 号 37 名)

(1) 事業実績の概要

子どもの主体性の尊重、異年齢児の交流を継続して推進している。各クラスを行き来して異年齢児で遊ぶ姿、好きな遊びを自ら選択し主体的に遊ぶ姿が日常的にみられるようになってきた。

未満児では、リズム遊びや脚力向上に効果のある玩具を取り入れた。以上児、未満児とも日常の室内遊びの質の向上のため、補助金を活用して各クラスに配置する玩具を充実した。

すまいる農園には蓮池も含めて虫が集まり、草花があり、子どもたちの自然への興味関心や学びへとつながった。また、2 歳児から年長児は野菜の栽培や収穫を通して祖父母と触れ合い、年中児・年長児は地元生産組合のご理解と祖父母の方から指導や助言を受けながら、米作りを行った。園児がさまざまな大人と触れ合う機会でもあり、食育の一環ともなった。

食育活動は給食担当者と保育者、地域の関係者との連携による梅干し、柿の葉寿司、味噌をつくる体験や、季節の食材に直接触れる体験などを行った。伝統食や地産地消について知ったり、子どもたちの食に対する楽しみと意欲を喚起したりすることができた。

園内研修では、人権擁護のためのセルフチェックリストの活用、遊びに熱中する子どもの気持ちの体感をするなどの工夫を行い、保育の質の向上や子ども理解に努めた。

子育て支援は、広場の 1 回あたりの利用者数は多くないが、継続的に利用される方など楽しみにされている。育児相談とは別に、看護師の話を聞いていただく機会を設けることにより保健衛生の理解啓発も行った。

小学校との連携として、公開保育に合わせて小学校教諭の参加を得て、日々の生活や遊びを通した学びを知っていただくとともに意見交換でより相互理解を深めた。小学校と園の連絡方法と窓口職員を明確化し情報共有がしやすくなった。

地域との連携のうち、コロナ禍で中断していた小学校長や町内会長の行事参観・卒園式臨席の機会を復活し、園の雰囲気や園児の様子を直接感じていただくことができた。高齢者の買い物バスについては、利用希望者が増えたため、週 1 回の頻度はそのまましつつ 2 往復で対応することとした。民生委員を中心とした方々と年 2 回の会合を持ち、買い物バスの状況や課題、地域のニーズの共有を図った。また、地域情報紙「スマイル」を年 4 回、「環境だより」を年 3 回発行し、各町内に回覧し、園の取り組みを知っていただくよう努めた。

(2) 月別在園児童数

蓮代寺		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	10	2	2	3	3	5	5	6	7	8	8	8	9	66
	1歳児	12	15	15	15	16	16	16	17	17	17	17	17	17	195
	2歳児	15	16	16	16	15	15	15	15	15	14	14	14	13	178
2号 認定	3歳児	11	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11	135
	4歳児	11	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	5歳児	11	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180
1号 認定	満3歳児	0	0	0	0	1	1	1	1	1	2	2	2	3	14
	3歳児	5	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	57
	4歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	5歳児	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
		85	81	81	82	83	85	85	87	88	89	89	89	90	1,029

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和 5 年度	115	39 組	448	50
令和 6 年度	36	88 組	209	104

6.幼保連携型認定こども園 大和こども園分園やざき乳児保育園の経営

令和3年4月1日 大和こども園の分園として新規開設(定員 29 名)

令和5年4月1日 利用定員を 20 名に変更

(1) 事業実績の概要

●教育保育事業

教育及び保育方針である三つのゼンをもとに、健康で安全な環境の中、愛情豊かで、応答的なぬくもりのある保育を行った。今年度は、熊の出没や熱中症アラートの発令が多く、子どもの安全を最優先する為、計画していた屋外での活動を中止せざるを得なかった。子どもにとって発達に必要な体験を積み重ねることは大切なことであるため、室内環境の充実に努めた。職員間の話し合いにより、年度後半、子どもの主体性や個性の尊重を重視した保育の実践をすすめた。子ども一人一人の興味や関心を起点として子ども自身がやりたいことを選択し、じっくり遊びこむ環境の充実を図りながら日々、職員間で話し合い試行錯誤を重ね、遊び環境の再構成を繰り返し行った。園内研修では、子ども理解を深められる内容に重点を置き、多面的な視点から保育や子どものことを語り合い専門性の向上を図った。安心できる保育環境のもと、園児一人一人が“自分のやりたいこと”を見つけ楽しむ姿から、保育内容の改善につなげることはできた。今後も継続し、更に深めていきたい。

0, 1, 2歳児にとって“食べる”ことは、生きていくための基盤となり、育ちに大きな影響を及ぼすものと認識し、食育活動を計画実践するよう努めた。遊びの中に取り入れた活動は、子ども自身が体験できる楽しい活動になり、子どもの食への興味関心を引き出せる活動になった。

●子育て支援事業

地域に向けた子育て支援事業「あっぷっぷ」を週 2 回開催。季節の歌を歌ったり、大型絵本の読み聞かせを行ったり等親子ふれあい遊び、楽器遊び等を実施し、少人数のゆったりした環境で、親子で安心して集える場を提供し、地域の親子の育ちを見守り支援してきた。相談件数は 127 件あり、そのうち利用者から離乳食や健康についての相談では、給食職員、看護師が相談に応じた。2 か月に 1 回、離乳食試食会を設け、連携を図った。

●地域との連携

地域の方には、毎月の園だより、年 2 回発行の地域情報誌「ありんこ」を回覧して子どもたちの遊びの様子や園での取り組みについて情報発信を行った。

●その他

職員配置を工夫してノンCONTACTタイムを取得し、業務の効率化を図った。

(2)月別在園児童数

やざき		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	6	2	3	3	4	6	7	7	9	10	12	12	12	87
	1歳児	9	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	2歳児	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
		20	10	11	11	12	14	15	15	17	18	20	20	20	183

(3)特別保育事業実績数

事業(件数)	病児(体調不良児)保育	地域子育て支援拠点	延長保育	一時預かり
令和5年度	35	425 組	84	48
令和6年度	89	384組	8	30

7. 幼保連携型認定こども園 湯野こども園の経営

令和6年4月1日・能美市立保育園民営化事業を受け、幼保連携型認定こども園として直接経営を開始。

施設名称を「湯野こども園」とする。

認可定員 205 名/利用定員 205 名(1 号 15 名/2 号 100 名/3 号 90 名)

令和6年10月1日・園舎新築工事着工。令和7年10月31日竣工予定。

(1) 事業実績の概要

幼保連携型認定こども園として県の認可を受けるにあたり、隣接する湯野公園を園庭として利用するための占有許可を得る。また、年齢ごとの園児数に対応する保育室の数が足りない状況で4.5歳児混合クラスを設けることで認可を得た。小学校区に1つのこども園であるが、保育室面積不足により入園希望者をすべて受け入れることができず、0歳児10名が市の調整により、市内の公立園に入園し、転居等で途中入園の希望のあった園児の受け入れも断る状況であった。

民営化初年度、能美市職員との共同保育を行う。「心も体も元気な子ども」「感性豊かで意欲のある子ども」「関わる力と思いやりのある子ども」を教育・保育目標として、湯野地区の自然環境や地域の特性を考慮し、スムーズな継承が行えるよう日々の活動や行事に取り組んだ。自然に恵まれたゆの山では、多くの気づきや学びを得ることができる体験活動が日常的に行えることは大変恵まれた環境である。公立園でも取り組んでいた畑やプランターでの野菜の栽培を、食育活動としてさらに充実した活動となるよう野菜の色・形・特徴を調べ、日々の観察や水やりなど園児とともに取り組んだ。収穫した野菜はその日のうちに調理してもらい味わったり、どんな料理にして食べたいかを話し合いクッキングをしたりして食への関心を深めていった。また、日々の給食のメニューは、能美市と小松市での園児に人気のあったものを取り入れ、能美市のアレルギー児対応の給食を見直し、手作りおやつ・手作りパンを取り入れるなど、美味しい給食を目指し、園児にも保護者にも好評を得た。これら日々の活動や食育の取り組みは、ドキュメンテーションとして玄関に掲示したりコドモンにて配信したりすることで、保護者に理解を深めていった。

発達上の課題のある園児の支援として、こども相談ステーションと密に連携し、巡回相談により園児の発達の確認、支援の方向性の確認、具体的な支援方法についての助言を得て支援の充実を目指した。また、保護者とも面談を通して育ちや課題を共有し連携することでより良い支援を探っていった。園内研修を通して担任以外の保育者の園児への理解も深めていくように努めた。

地域の子育て支援として、月2回園開放「どんぐり広場」を開催し、育児相談やふれあい遊び、保護者同士の情報交換の場の提供等を行い、地域の親子を見守り、親子で安心して集える場として好評を得た。また、情報誌を3回発行し地域に回覧することで、こども園の取り組みを発信し、「民営化」と「幼保連携型認定こども園」への地域の期待に対し理解を求めていった。

職員の質の向上を図るためのキャリアアップ研修等は、公立園がほとんどの能美市では定着しておらず、受講歴のない多くの職員に受講の機会を作ることは難しく、本年度開催された法人のキャリアアップ対応の園内研修を勧めるなど研修受講を推進していった。受講した職員からは学びの機会を得たことへの喜びの声も聴かれた。また、自己評価チェックリストや人権擁護のチェックリストを計画的に行い、職員個々の気づきや意識改革に働きかけたり、園内研修で話し合ったりして保育の質の向上を目指したが十分ではなかった。

年間を通して感染症の流行が幾度か見られ、衛生環境・習慣の見直しが次年度の課題である。

(2) 月別在園児童数

湯野		利用定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3号 認定	0歳児	20	4	8	8	10	11	13	13	14	16	16	18	18	149
	1歳児	35	31	31	31	30	30	31	31	33	33	33	33	33	380
	2歳児	35	28	29	29	27	27	27	27	27	27	25	25	24	322
2号 認定	3歳児	40	39	39	40	41	41	41	40	40	40	40	40	40	481
	4歳児	32	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	29	29	359
	5歳児	28	31	31	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30	369
1号 認定	満3歳児	0	0	0	0	2	2	2	2	2	2	3	3	4	22
	3歳児	5	3	3	3	2	2	2	3	3	3	3	3	3	33
	4歳児	5	5	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7	7	73
	5歳児	5	1	1	1	2	2	2	2	2	2	3	3	3	24
		205	173	178	179	181	182	185	185	188	190	189	191	191	2,212

(3) 特別保育事業実績数

事業(件数)	体調不良児保育	子育て支援「園開放」	延長保育	一時預かり
令和6年度	433	47	378	57

8. 芦城児童クラブ 1・芦城児童クラブ 2 の経営

平成 17 年 4 月 1 日・芦城小学校平成集義室にて開設

平成 22 年 4 月 1 日・「第一」「第二」に分割運営開始

平成 27 年 4 月 1 日・「子ども子育て新制度」施行により小学 6 年生までを事業対象にする。このため定員変更

(第一芦城っ子クラブ定員 45 名/第二芦城っ子クラブ定員 45 名)

平成 27 年 6 月 1 日・小松市意向により施設名を「芦城児童クラブ 1」「芦城児童クラブ 2」に変更

(1) 事業実績の概要

令和 6 年度は、「子どもたちの自己肯定感を育む」という施設理念のもと、12 名の支援員が、日々の保育にあたった。

ここ数年、児童クラブの利用児童数は増加傾向が続いており、特に 1 年生の利用率が高まっているだけでなく、4 年生以上の利用も増え、幅広い学年の子どもたちが、継続して利用するようになってきており、施設としての受け入れ体制が大きな課題となっていた。令和 6 年度は、定員 90 名に対し 165 名の児童を受け入れるという厳しい状況の中、保育環境の維持と確保を最優先に取り組んだ。市の生涯学習課や学校との度重なる協議を経て、校内の理科室の借用や、ふれあい広場の活用時間の拡大など、限られたスペースを最大限に活かす工夫を行い、子どもたちが安全・安心に過ごせる環境づくりに努めた。

また、こうした利用増加に対応するため、令和 7 年度からの「芦城児童クラブ 3」の増設に向けた準備も本格的に進めた。保育場所の確保だけでなく、支援員の増員・配置、受け入れ体制の見直しなど、持続可能な運営体制づくりに取り組み、次年度以降の安定した運営を見据えた基盤整備を行った。

行事については、これまで全体で実施していた定番行事の内容を見直し、1 年生から 5 年生まで幅広い学年が在籍することを考慮し、低学年向け、上級生向け、学年別など、子どもたちの発達段階に応じた行事を実施した。

夏休み期間中は、児童数が年間で最も多くなる時期であり、さらには猛暑の影響により、ふれあい広場が使用できなくなる為、毎日の遊びでは、保育室で身体を動かす時間や、学校の理科室を活用して、子どもたちが自主的に参加できる遊びの場を設けたり、全体行事も午前午後に分ける等、工夫をして行った。

また、昨年度に保護者から好評だった親子レクリエーションや、祖父母を招いた「新春旗源平大会」などの世代間交流行事も引き続き実施し、家族間の絆を深め、地域とのつながりや理解を得ることが出来た。

今後も、子どもたちの成長と発達を支える場として、重要なことは、質の高い育成支援を安定的に提供できる体制づくりである。児童クラブにとって、支援員の確保、育成、組織体制の強化が、今後に向けた課題と捉えている。

令和 7 年度からの「芦城児童クラブ 3」の開設を大きな転機とし、受け入れ体制をさらに充実させ、ますます多様化する保育ニーズに柔軟に対応していけるよう、今後も事業の充実と質の向上に取り組んでいきたい。

(2) 月別登録在所児童数

開設日数		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		合計		
平日		16		21		20		14		0		19		22		20		17		17		18		15		199		
土曜日		4		3		5		3		5		3		4		4		4		4		4		5		48		
その他		5		0		0		8		18		0		0		0		3		2		0		5		41		
合計		25		24		25		25		23		22		26		24		24		23		22		25		288		
児童クラブ		一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	一	二	
児童数	1年生	21	25	19	24	18	24	24	24	25	22	19	24	19	24	19	23	20	24	20	24	19	23	20	24	243	285	
	2年生	19	20	16	19	15	19	19	21	20	23	17	17	17	16	17	16	18	16	18	16	16	16	18	16	210	215	
	3年生	16	19	14	16	14	16	15	18	14	15	14	16	14	16	14	16	14	17	14	17	14	16	13	17	170	199	
	4年生	13	10	9	8	8	8	12	12	12	12	9	7	9	8	9	8	12	9	11	9	8	7	10	8	122	106	
	5年生	1	0	0	0	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計	70	74	58	67	55	67	72	75	73	73	59	64	59	64	59	63	64	66	63	66	57	62	61	65	750	806	
うち加配児童		3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	2	36	24	

8.蓮代寺児童クラブの経営

平成 31 年 4 月 1 日・「蓮代寺児童クラブ」を受託運営開始(定員 25 名)

※指定管理者/令和 6 年 4 月 1 日～令和 11 年 3 月 31 日の 5 年間

(1)事業実績の概要

令和 6 年度は登録児童 28 名、支援員 6 名で「子どもたちの自己肯定感を育むために、無条件に愛される体験、褒められるという体験、共感される体験、感謝される体験、達成感を得られる体験を」の施設の理念のもと、保育にあたった。また保護者や子どもたちとの信頼関係の構築にも力を入れて保育にあたった。

「環境の整備」として引き続き、職員による日々の室内清掃の徹底、長期休みには子どもたちに、朝そうじを毎日の日課に取り入れ、自分たちが毎日過ごす施設を自分たちできれいにするということを学ばせた。今まで施設に網戸が設置されていなかったため、市に要望をし続け、ようやく網戸設置に至った。また、子どもたちがいかに安心・安全に過ごせるかを考え、引き続き学校の空きスペースを活用させていただき、季節ごとに使うものを入れ替え、収納を工夫し、少しでも室内空間を広げることで、子どもたちは日々安心安全に過ごすことができた。

「児童の健全育成」として、毎月恒例行事として新しくチャレンジという行事を取り入れた。これは毎月内容を変えて、風船バレーやカローリング、大縄跳び、体力測定など今までにやったことのないことにみんなで挑戦してみよう！と、諦めずに挑戦することで達成感を味わうことにつながった。また季節に応じた行事を計画し、子どもたちの参加型ではなく主催型の行事に変え、子どもたちの意見やアイデアを取り入れた。

「コミュニケーション力を高める」取組として、子どもたち自ら内容を決めた行事の司会進行をやってみることで、人に伝える力、聞く力を養うことができ、そのことが子ども同士の遊びの上でも、上手く遊びが成立し、トラブル減少にもつながったように思う。

「支援員の研鑽、研修」では、研修会に積極的に参加し、スキルアップを図った。今年度も ZOOM を活用した研修会が多く、研修に参加しやすかった。また、施設内研修では、支援員同士、些細なことでも報告しあい、情報を共有することで、全員が同じ目的をもって保育にあたることが出来た。

「保護者との連携」として、コドモンを大いに活用し、保護者からの出欠の連絡はもちろん、初めての引き渡し訓練、そして緊急時にはいち早く一斉に連絡することで、保護者の方の安心感にもつながった。クラブからのお便りも載せることで常に行事等を確認できるという便利性があった。保護者とは、お迎え時にクラブでの様子を話し、保護者との連携を図った。また今回初めてお迎え時を利用して茶話会を行い、普段の子どもたちの様子を直に見ていただけたことと、そして私たち職員にとっても、いつものお迎えとは違って、保護者の方とゆっくり話をするととても良い機会となった。

3 月には新一年生保護者説明会を行い、事前に学童クラブについて説明し、質問等に答えることで保護者の方に安心して4月から学童を利用していただくことができた。

「学校・関係機関との連携」として、学校とは打ち合わせ会や担任の先生との情報交換会の他に、日常的な情報交換を行い、情報の共有を図った。また、3 月には蓮代寺こども園の先生から、新 1 年生のこども園での様子等を聞かせていただいたことで、スムーズな受け入れを行うことが出来た。

(2)月別登録在所児数

開設日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平日	16	21	20	14	0	19	22	20	17	17	18	15	199
土曜日	2	2	2	4	3	2	2	2	2	2	2	2	27
その他	5	0	0	8	18	0	1	0	3	2	0	5	42
合計	22	23	26	23	21	22	24	22	20	23	22	20	268
児童数	1年生	9	10	10	13	13	12	11	11	11	11	9	130
	2年生	7	7	6	6	6	6	5	7	6	6	5	73
	3年生	6	5	5	6	7	5	5	5	5	4	5	63
	4年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	5年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6年生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	22	22	21	25	26	23	21	23	22	22	18	266
うち加配児童	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36

9.大和ぬくもり大学の経営

昭和 19 年 6 月 15 日設立 昭和 33 年 4 月 1 日社会福祉事業法許可

平成 4 年 7 月 1 日 「大和ぬくもり大学」開校

平成 9 年 10 月 小松市芦城センターに移転

令和 1 年 10 月～令和 2 年 6 月 小松市芦城センターリニューアル工事・・・全講座基本休講

令和 2 年 6 月 小松市芦城センターでの事業再開(新型コロナウイルス感染禍での再開となった)

(1)事業実績の概要

大和善隣館は、創設理念を原点として、現在に継承されている。平成 9 年 10 月に芦城センターが建設されると法人本部事務局と共に移転し、小松市が設置した小松市中央老人福祉センターの事業運営を受託し、現在は主として高齢者福祉事業として「大和ぬくもり大学」を開校し生涯学習講座を実施している。

●大和ぬくもり大学

福祉(ささえあい)と教育(まなびあい)を一体としてとらえ、これを統合的、有機的に運用するために、平成 4 年 7 月 1 日に開講した。小松市内在住の 55 歳以上の方を対象に、令和 7 年 3 月末現在、14 講座 3 クラブを開講し、開始状況は次のとおりであった。

令和 6 年度は、新型コロナ・インフルエンザ等感染拡大期の休講はなかったが、感染期の自己判断による欠席や大雨・台風・大雪により芦城センターに通う際の危険を回避するため休講が増加している。また、これらの連絡に公式 LINE による連絡網を活用できるようになった。

対前年度、1 講座(陶芸)が利用者減少により閉講もあり、開催回数▲15 回・延べ利用者数▲195 名となった。

開催会場の小松市芦城センターの空室状況を踏まえながら、新講座・新クラブ開設に取り組んでいきたい。

※令和 5 年 9 月をもって、「陶芸講座」が閉講となっており、令和 6 年度実績はありません。

【大和ぬくもり大学年間利用者延べ人数】

講 座 名	回 数		利用人数		講 座 名	回 数		利用人数	
	令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度		令和5年度	令和6年度	令和5年度	令和6年度
料 理	15	16	62	52	水 彩 画	19	20	56	69
社交ダンス	59	45	377	321	ちいさな水彩画	21	23	111	89
俳 句	11	12	51	38	ぬくもりヨガ	23	24	129	183
歴 史	10	12	84	96	陶 芸	10		56	
茶 道	23	24	195	193	リフレッシュダンス	97	99	647	700
書 道	23	23	244	227	加賀水引	12	11	127	122
詩 吟	41	45	227	213	合唱クラブ	28	27	619	528
歌謡舞踊	36	34	248	267	囲碁クラブ	48	47	396	411
パソコン	42	42	295	302	歌謡曲クラブ	44	43	684	602
					合 計	562	547	4,608	4,413

【大和ぬくもり大学 令和 6 年度実施行事】

- ・令和 7 年 3 月 29 日(土) 第 25 回卒業証書授与式を開催

(2)相談事業・・・利用者 2 名

令和 6 年度事業報告は以上である。

社会福祉法人大和善隣館

理事長 広川 保

役員名簿

令和 7 年 3 月 31 日

役員	氏名
理事	荒井 早苗
〃	池田 巧
〃	片桐 真二
〃	清水 啓子
〃	田中 琴乃
〃	堂前 弘美
〃	広川 保
〃	森 都
監事	堅田 光恵
〃	嘉藤 恵子
〃	高田 眞次
〃	森 和美

役員	氏名
評議員	池田 辰雄
〃	遠州 賢
〃	柿本 佳美
〃	北川 潔
〃	釧崎 隆
〃	辰巳 平一
〃	出口 春一
〃	中田 眞知子
〃	中山 美保子
〃	西田 頼子
〃	山本 敏明

※五十音順